

旭川医科大学 卒後臨床研修センター通信

平成24年5月号
発行:卒後臨床研修センター



センターの活動予定

◆6月26日(火)

「合同入局説明会 ～育児しながらキャリアアップ～」ポスター展示
「内科学講座合同ガイダンス」

◆6月下旬 センター通信 6月号発行

研修医 体験談 第5回岡澤 友希 先生

皆さんこんにちは！研修医2年目の岡澤友希です。国家試験をくぐり抜けてはや1年。あっという間のようなそうじゃないような1年目を過ごしました。本当は今まで回った科の感想を詳細に書こうと思ったんですが、書いてる途中で尺が全然足りなくなることに気づいたので、端折って書くことにします。1年間大学で研修をやらせてもらって思ったのは3つ。1つめは「思ったよりも手技をやらせてもらえる」ということです。大学病院での研修は「手技ができなくて雑用が多い」というイメージを持つ方が多いのかもしれませんが、そんなことは全然ないと私は思っています。消化器ではGFや腹部エコーをたくさんやらせてもらったし、救急科ではCVカテやらAラインやら入れたし、呼吸器内科ではBFはもちろん気胸の患者さんラッシュだったのもあって胸腔ドレーンをたくさん入れさせてもらいました。外病院でどれぐらいやってるのかわかりませんが、少なくとも私は「手技ができない」という不満はなかったです。2つめは「当直体制が安心できる」ということ。必ず上級医の先生がいるし、全科当直もしているから専門的なことは各科の先生に相談できるというのは本当に安心です。その科の先生が来てくれた時に色々教えてもらえれば、勉強にもなるしね！そして3つめは「大学での研修は自分に合っていたなあ」ということです。もちろんまだ研修半ばですが、1年を振り返ってしみじみそう思います。日々の業務に追われすぎず、一人の患者さんの病態をじっくり考えられるということ、上級医の先生から丁寧な指導を受けられることは「習うより慣れろ」が苦手な自分にとってとても合っていたなと思っています。また、2年目から自分の進みたい専門分野にどっぷり浸かれる研修プログラムもいいなあと思います。私は今、入局を決めた放射線科で日々楽しくそして充実した毎日を送っています。そんなわけで、まとめると「大学での研修、悪くないよってかむしろオススメだよ！」ってことです。(奨学金も入って金銭面的にも潤ってますしね…(笑)) ちょっとでも大学病院研修の良さが伝わって、願わくば来年以降もっと研修医が残ってくればいいなあという思いをこめて、この文章を締めたいと思います。残りの研修もがんばるぞー！



【お知らせ】7月上旬に、4年生以上を対象に本院研修プログラム説明会及び意見交換会を本学同窓会と合同で開催予定です。詳細は追ってご案内いたしますので是非ご参加ください。

【報告①】北海道合同プレゼンテーション参加しました

4月22日(日)札幌会場、4月29日(日)東京会場(e-レジフェアに北海道が出展)の北海道の臨床研修病院合同プレゼンテーションに参加しました。札幌会場では副センター長の牧野先生がブースを訪れた学生に本院研修プログラムについてご説明くださいました。また、東京会場では大崎センター長と2年目研修医の岡澤先生、1年目研修医の櫻井先生が研修プログラムや本院での研修生活についてをお話ししてくださいました。本院プログラムの良さを、本学以外の学生さんにも伝えることができましたと思います。



【報告②】研修医セミナーを開催しました

5月23日(水) 17:30から研修医セミナー「胸部CT画像」を開催いたしました。講師の大崎センター長は、最新のCT画像を用いて呼吸器疾患症例についてご説明くださり、学生さん2名を含む参加者は、みなさん熱心に聞いておられました。



「母校を知ろう!!」

卒業後の研修先を決める際の参考にしていただくために、まず母校について紹介します。その方法としてまずこの紙面で順次1講座ずつ紹介します。さらに大学や院内の様々な部署の教員の方から具体的な仕事の内容、働きがいはどこにあるのか、将来はどんな道が開けているのかなどをご紹介いただきます。

母校の紹介 第5回 小児科学講座

小児科では、新生児期から思春期までの子どものあらゆる疾患を対象とし、6つの専門グループ(感染・免疫・腎臓、循環器、神経、内分泌・糖尿病、血液・腫瘍、新生児)に分かれて診療を行っています。また、外来には「子どもの発達診療センター」が開設され、発達障害診療の充実を図り、社会のニーズに応えられるよう活動しています。卒後研修では、これらすべてのグループをローテーションして学び、小児の総合医としての基礎を身につけます。私達は、「こどもの病気を診るのではなく、病気のこどもを診る」という全人的医療の実践を目標にしています。



病態が不明な疾患があります。いまだに有効な治療法のない疾患もあります。そのような困難に遭遇している子ども達のために努力を継続できる優しい医師になりたいと思っています。当教室には、分子遺伝学的研究を行う設備が整っており、全ゲノム配列の網羅的解析が可能な次世代シーケンサーを用い、未知の病因遺伝子の探索を推し進めています。診療グループ間および上司と部下の垣根は低く、お互いに協力して燃費効率のよいハイブリッド型研究を進められるのは小児科の特徴でしょう。総合医としての資質を備え、臨床経験の中から生じた疑問を自らの手で解明していくことができる。これは、医師として幸せなことではないでしょうか？

【お問い合わせ先】

旭川医科大学 卒後臨床研修センター
〒078-8510 北海道旭川市緑が丘東2条1丁目1-1 TEL 0166-68-2198 FAX 0166-68-2199
E-mail: sotsugo@jimu.asahikawa-med.ac.jp
ホームページもご覧ください。
<http://www.jimu.asahikawa-med.ac.jp/shomu/sotsugo/>